自家発電比率

資生堂 主力工場で倍増

来夏めど 照明の節電も推進

資生堂は主力工場の自家発電能力を増強する。トイレタリー用品などを生産する久喜工場（埼玉県久喜市）に新しい設備を導入、2012年夏までに自家発電比率を現在のほぼ2倍の水準に高める。同工場は太陽光照明システムの導入なども進めており、従来の電力会社からの購入分への依存度を低減。電力不足の懸念が長引く可能性も高まるなか、エネルギーのリスク対策を加速する。

久喜工場はヘアケア製品の基幹ブランド「TSUBAKI」や整髪剤「ウーノ フォグバー」などのトイレタリー用品を生産する。高速ラインで大量生産するのが特徴で資生堂の国内4工場の生産数量の4割超を占める主力工場だ。

01年に自家発電用にコージェネレーション（熱電併給）システムを導入していたが、現在の設備を刷新して新たにガスエンジン方式の自家発電装置を稼働させる。既存設備の発電能力は同工場の電力使用量に対する比率でみると24%だった。

今回導入する設備は東京ガスの子会社の製品で発電能力は1800キロワット時。省エネ効果なども含め、電力使用量のうち自家発電でまかなえる比率は44%まで高まると見ている。

新しい自家発電は「既存の設備より細かな出力調整が可能で効率が良い」（資生堂）のが特徴という。12年春にも着工、電力需要が高まる夏ごろの稼働を目指す。資生堂は環境保全関連に年20億円前後を投じており、電力不足も視野に今後も投資を推進する。

同社は自家発電の増強と並行して既存の電力への依存度を下げる対策を推進する。久喜工場では昨春に太陽光照明システムを倉庫棟に導入。「昼間の時間帯は基本的に電気の点灯は必要ない」という〝ゼロ照明倉庫〟を実現した。

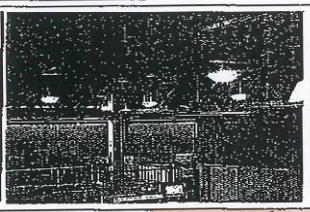
倉庫屋根に透明なドームを82台設置。特殊加工した曲面反射板で太陽光を効率良く庫内に行き渡らせる仕組み。投資額は3500万円で年間で9万キロワット時の節電効果が期待できるという。今後はボイラー棟など工場内の他施設への導入を検討する。

また同工場では工場敷地内の外灯や水銀灯をすべて発光ダイオード（LED）に変更。節電対策や二酸化炭素（CO_2）の排出量の抑制に取り組んでいる。

東日本大震災による原子力発電所の事故の影響に加え、原発の定期検査後の再稼働を巡る政府方針の迷走などから電力需給の先行きは不透明感を増しており、電力不足対策の強化へ動く企業が増えそうだ。

自家発電機の最近の主な設置事例

ブレーキ工業	8月に埼玉県中央部に拠点をメドに2点のなどへ設置
パナソニック	東北電力の管内に拠点・設置
コロナ	新潟県に設置の2拠点
TOTO	神奈川県にある千葉県と神奈川県に設置の4拠点
味の素	8月までに川崎市などに設置の7拠点



倉庫の屋根部分から太陽光を効率的に取り入れる久喜工場（埼玉県久喜市）